

平成26年8月6日

平成26年度病害虫発生予察特殊報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : キュウリ退緑黄化病
2. 病原ウイルス : ウリ類退緑黄化ウイルス (Cucurbit chlorotic yellows virus ; CCYV)
3. 作物名 : キュウリ
4. 発生地域 : 県中部
5. 発生確認の経過および県外での発生状況

平成26年5月、県中部の施設キュウリほ場において、葉の退緑、黄化症状が発生した（表1、図1）。和歌山県農作物病害虫防除所における遺伝子解析（RT-PCR法）の結果、CCYVによるキュウリ退緑黄化病であることが確認された。本病は九州全県（沖縄県を除く）、山口県、広島県、愛媛県、高知県、埼玉県、群馬県、栃木県、茨城県、神奈川県、千葉県で発生が確認されている。

6. 病徴および被害

はじめ葉に退緑小斑点を生じ（図2）、次第に小斑点が拡大、融合しながら不鮮明なモザイク症状となる。症状が進行すると、葉は葉脈部分を残して黄化する（図3）。黄化した葉は、しばしば下側に葉が巻く症状を呈する。また、症状は生長点付近の葉には現れず、成熟した葉のみに現れる。本病は定植直後から収穫終了時まで発病するが、感染時期が早いほど草勢低下による減収被害が大きく、最大で30%の減収率に達するという報告がある。

7. 病原ウイルスの性質および伝染

本ウイルスは、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミ（バイオタイプQおよびB）により半永続伝搬（ウイルス媒介能力は数時間から数日間持続）される。経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないと報告されている。自然感染が確認されている作物は、キュウリ、メロンおよびスイカである。なお、接種試験では、ウリ科、ナス科、アカザ科など広範な植物に感染することが確認されている。

8. 防除対策

媒介虫であるタバココナジラミの防除対策を徹底するとともに伝染源の除去に努める。

- 1) 育苗期の薬剤防除および定植時の粒剤処理により、低密度時からタバココナジラミ防除を徹底する。
- 2) 施設開口部への防虫ネット（目合い0.4mm以下）展張、近紫外線カットフィルムの利用などにより成虫の侵入防止に努める。
- 3) タバココナジラミは寄主範囲が極めて広く、多くの雑草にも寄生するので、施設内

および施設周辺の除草を徹底する。

- 4) 発病株は伝染源となるため、見つけ次第直ちに抜き取り、ビニル袋などに入れて完全に枯死させてから処分する。
- 5) 栽培終了時に全ての株を抜根し、夏季の場合でも施設を10日間以上密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外への分散を防止する。

表1 キュウリ退緑黄化病の発生状況

調査月日	調査地域	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)	発病株率 (%)
5月14日	県中部	10	20	3.2

注)1ほ場50株調査



図1 発病株



図2 発病初期の退緑小斑点



図3 葉の黄化

担当：和歌山県農作物病害虫防除所
大谷、岡本崇
電話：0736(64)2300